

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果分析（概要）

1 実施日 令和4年4月19日（火）

2 調査対象

小学校6年生 25校 1,167人

中学校3年生 14校 1,019人 計 2,186人

3 調査内容

- 小学校（国語・算数・理科）、中学校（国語・数学・理科）に関する調査
- 生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

4 学力調査について＜教科に関する調査＞

- 小・中学校とも、二極化が見られる。（※10～15頁参照）
- 全国平均を上回っているのは、小学校で約半数、中学校で約3分の1の学校である。
- 市町別に見ると、今治市内でも二極化が見られる。（※16頁参照）

5 今治市の子どもたちの強み・弱み

【強み】

- 自己肯定感が高く、前向きに学校生活を送っている。
- 「知識・技能」を問う問題の正答率は、全国平均以上である。
- 真面目に頑張りたいという思いを持っている。

【弱み】

- 身につけた「知識・技能」を「思考・判断・表現」力に生かされていない。
- 小・中学校とも国語力、特に、「読解力」「聞く力・話す力」に課題がある。
- 自学力（自ら学ぶ力）が弱く、家庭学習の習慣が付いていない。
- 無回答率が高い。

6 今後の予定

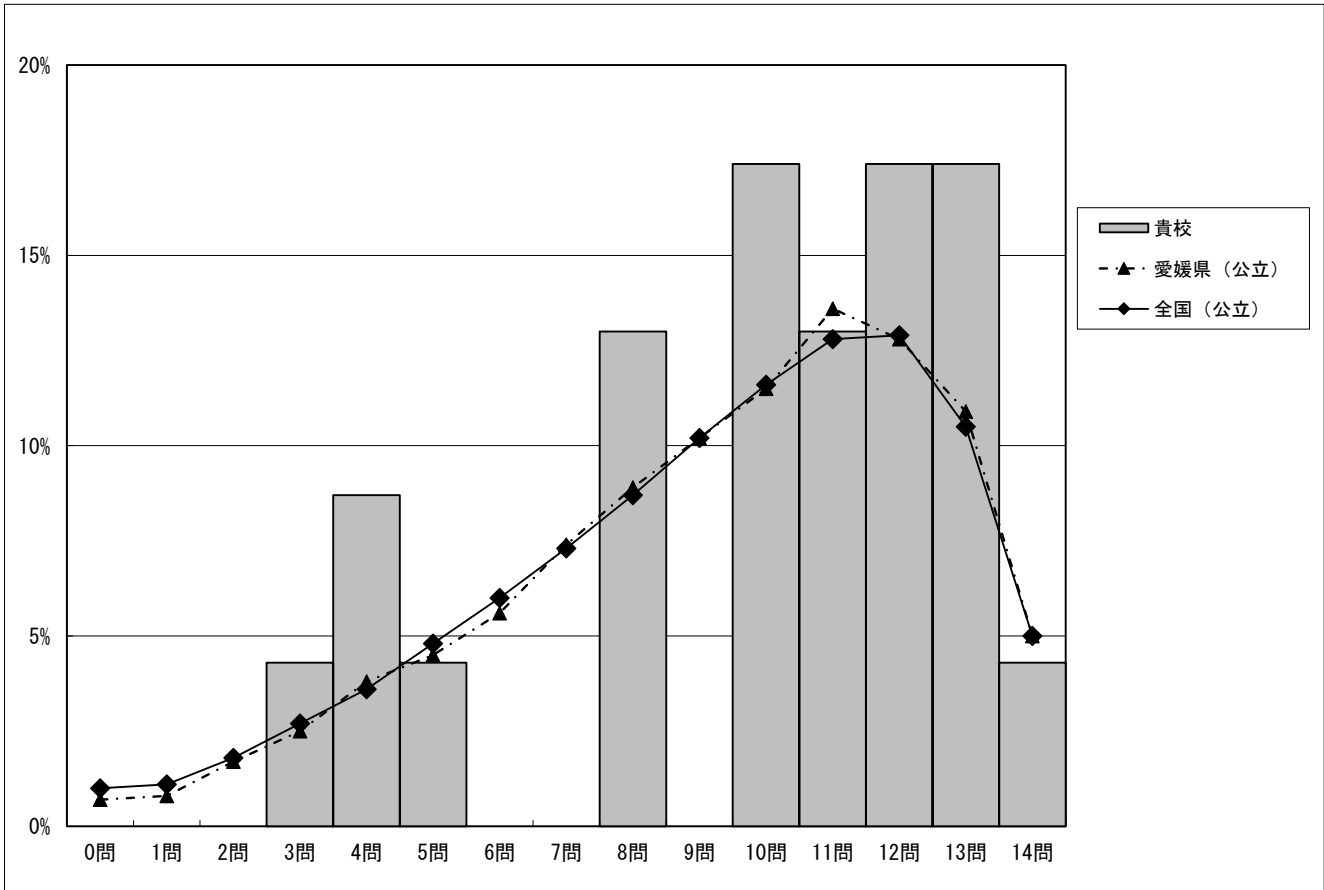
- 今治市学力向上推進主任会において、各校の課題と、それに対する対策について指導主事から指導や協議（※8月25日実施済み）
- 学習状況等調査の結果を更に分析し、各学校ごとに適切な支援や指導を指導主事訪問や各種研修会等を通じて実施（※9月8日～継続中）
- 愛媛県教育委員会と連携し、互いに意見を出しながら、今後の方向性について協議を行った。（※9月14日実施済み）
- 小学校においては、臨時校長会において、基礎学力の定着に関して、教育長からの指導と各校校長との意見交換・情報交換を行った。（※9月27日実施済み）
- 基礎学力の定着を図るとともに、「ふるさとキャリア教育」を推進し、子どもたちの思考力、課題解決能力の醸成を目指す。
- 中学校においては、新しいオンライン学習教材の実証研究に関することや来年度以降の、オンライン学習教材への全中学校入れ替えも含めて、今後、臨時校長会を開催する予定。（※10月18日実施済み）

令和4年度全国学力・学習状況調査
 調査結果概況 [国語]
 今治市立〇〇小学校一児童

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
今治市立〇〇小学校	23	9.9 / 14	70	11.0	3.2
愛媛県 (公立)	10,580	9.3 / 14	66	10.0	3.2
全国 (公立)	965,308	9.2 / 14	65.6	10.0	3.3

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)

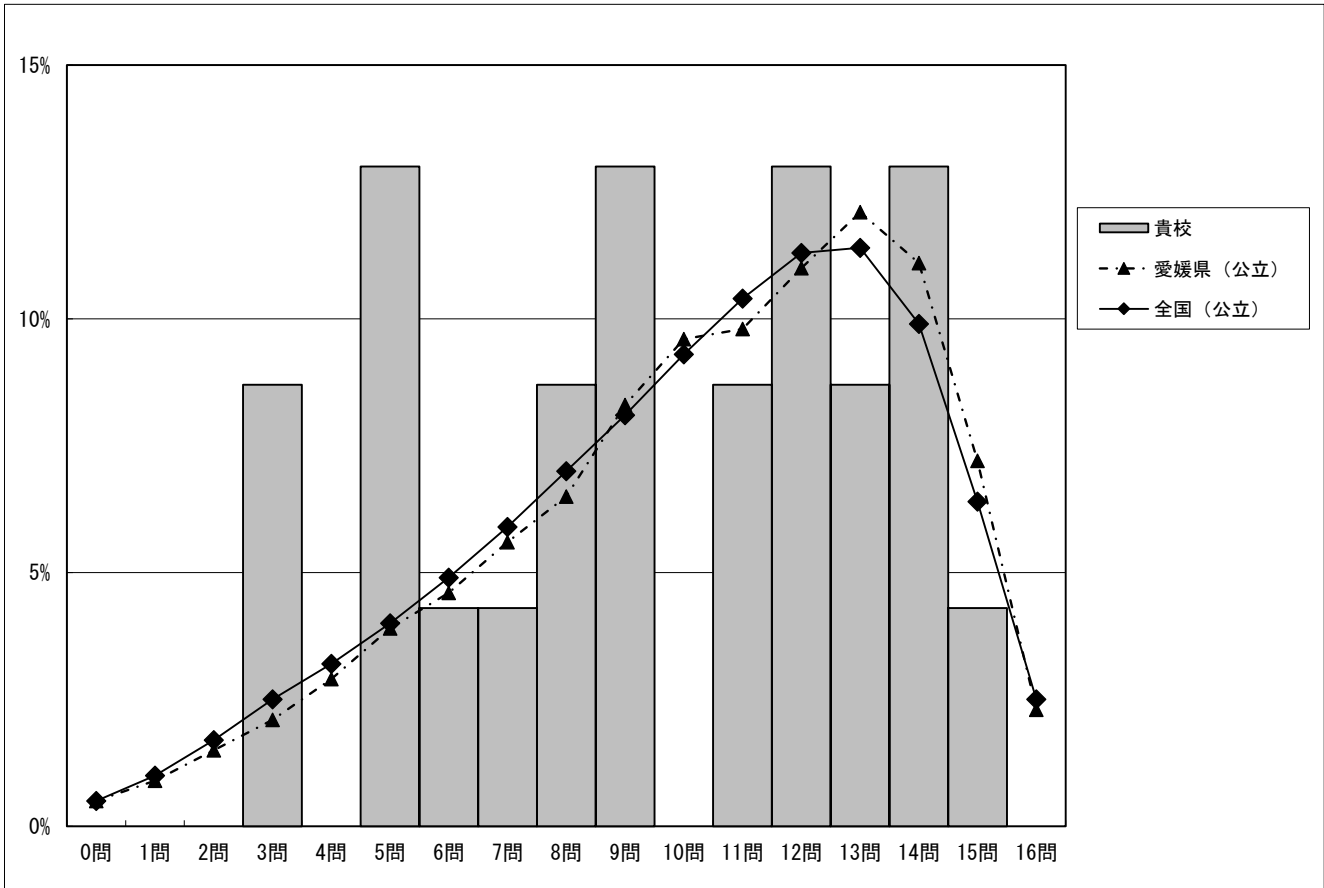


令和4年度全国学力・学習状況調査
 調査結果概況 [算数]
 今治市立〇〇小学校一児童

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
今治市立〇〇小学校	23	9.5 / 16	59	9.0	3.7
愛媛県 (公立)	10,583	10.3 / 16	64	11.0	3.6
全国 (公立)	965,431	10.1 / 16	63.2	11.0	3.6

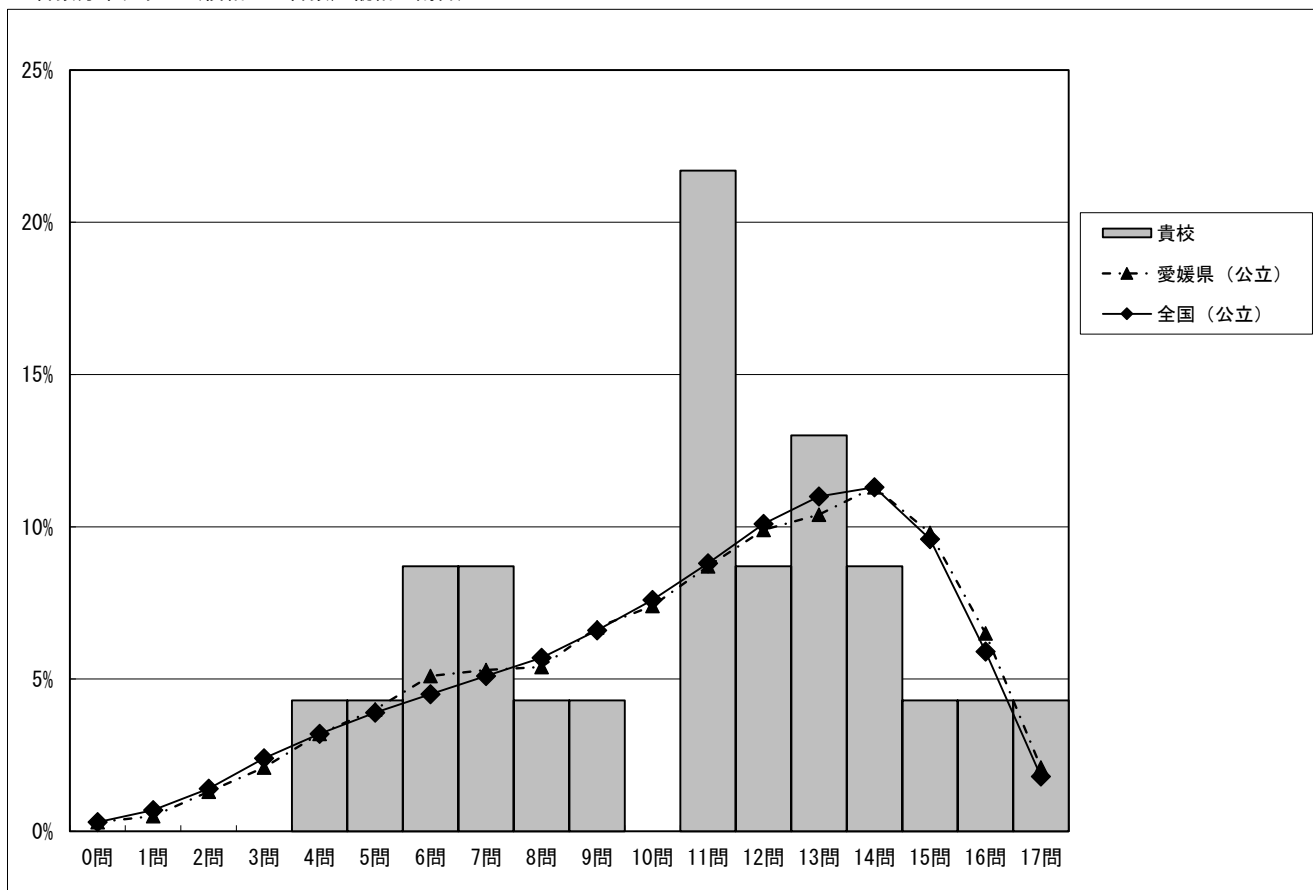
正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
今治市立〇〇小学校	23	10.7 / 17	63	11.0	3.5
愛媛県 (公立)	10,579	10.8 / 17	64	11.0	3.8
全国 (公立)	965,761	10.8 / 17	63.3	11.0	3.8

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)

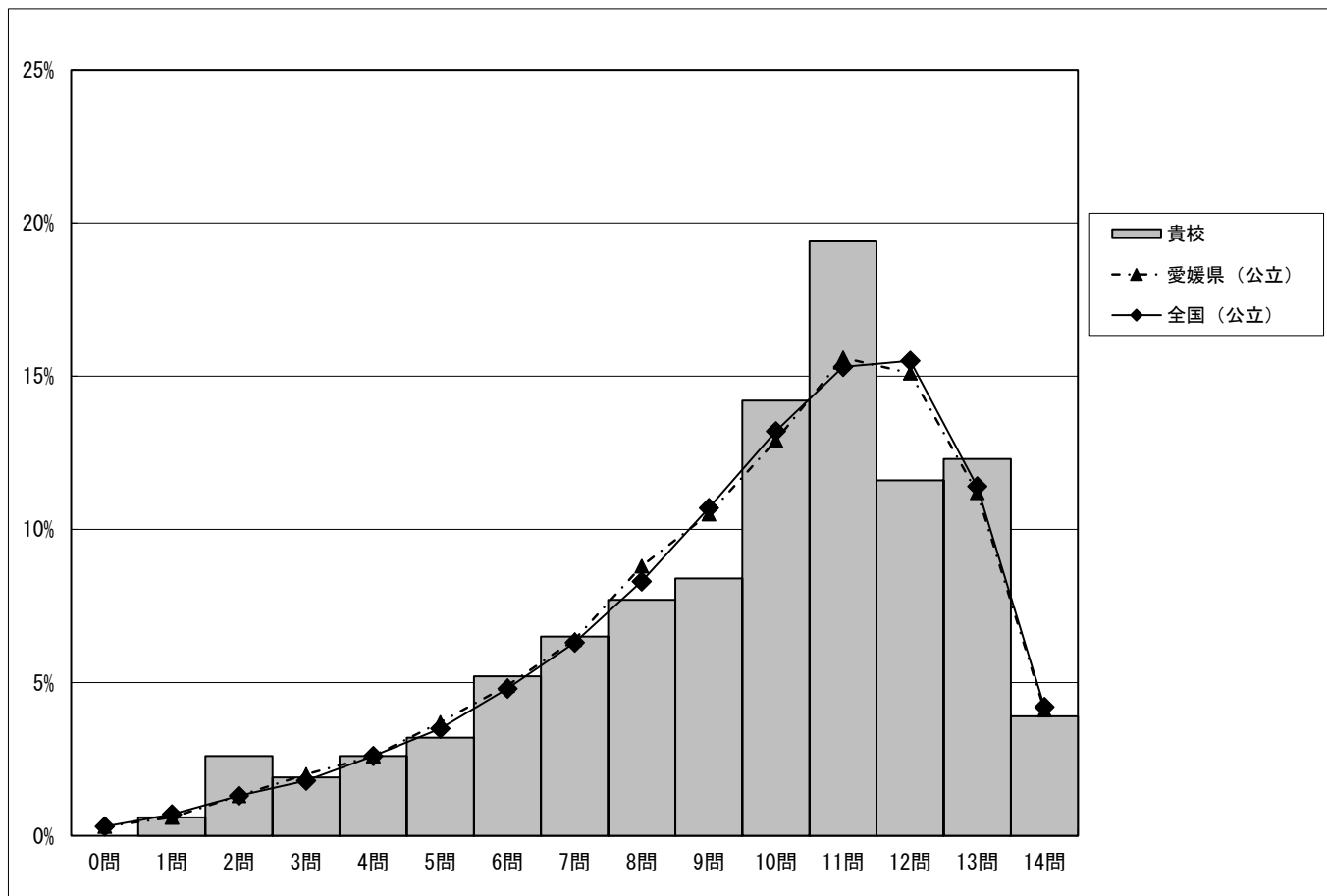


令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語]
 今治市立〇〇中学校一生徒

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
今治市立〇〇中学校	155	9.6 / 14	69	10.0	3.0
愛媛県 (公立)	10,110	9.6 / 14	69	10.0	2.9
全国 (公立)	891,820	9.7 / 14	69.0	10.0	2.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)

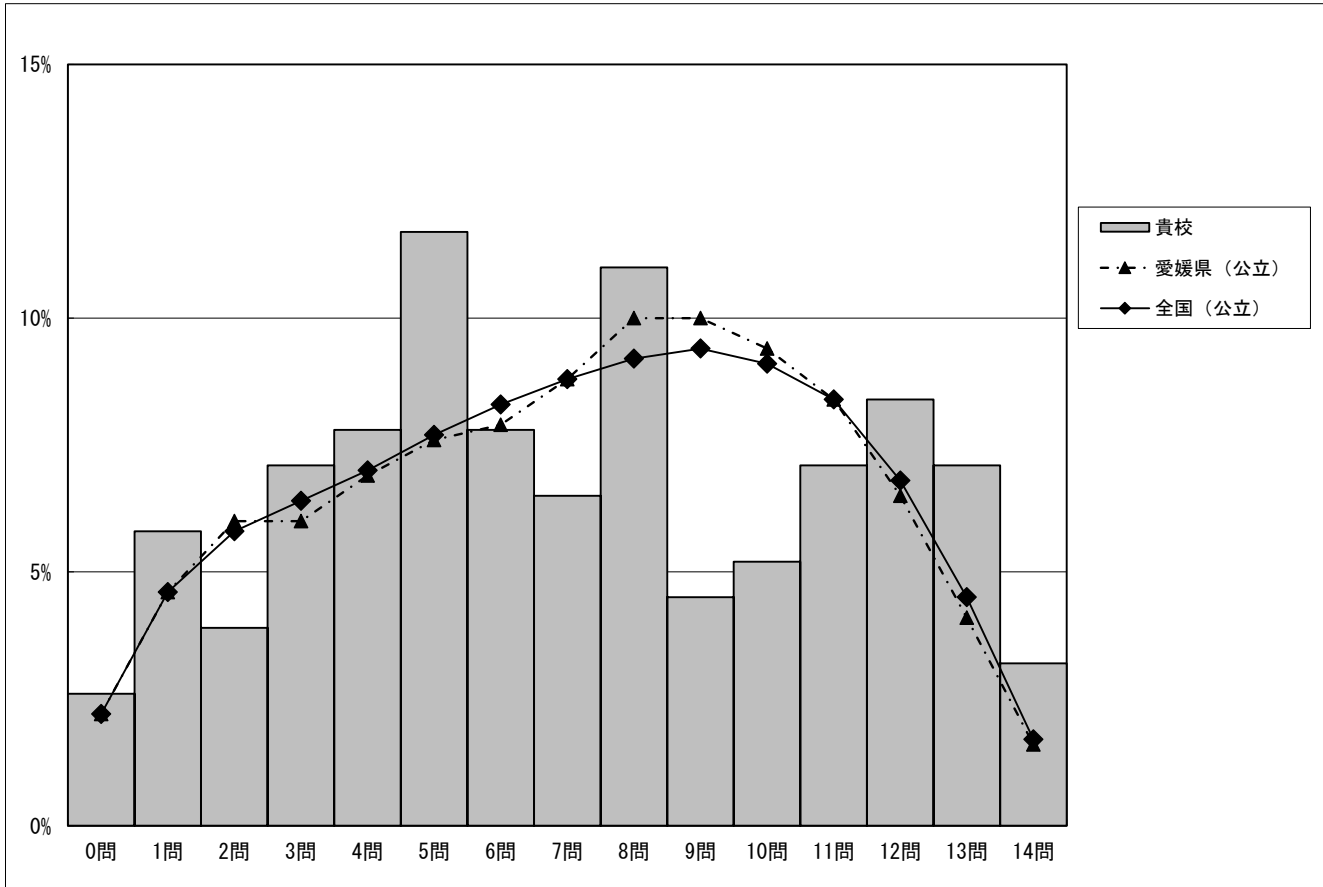


令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [数学]
 今治市立〇〇中学校一生徒

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
今治市立〇〇中学校	154	7.2 / 14	51	7.0	3.9
愛媛県 (公立)	10,115	7.2 / 14	51	8.0	3.6
全国 (公立)	891,913	7.2 / 14	51.4	7.0	3.6

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)

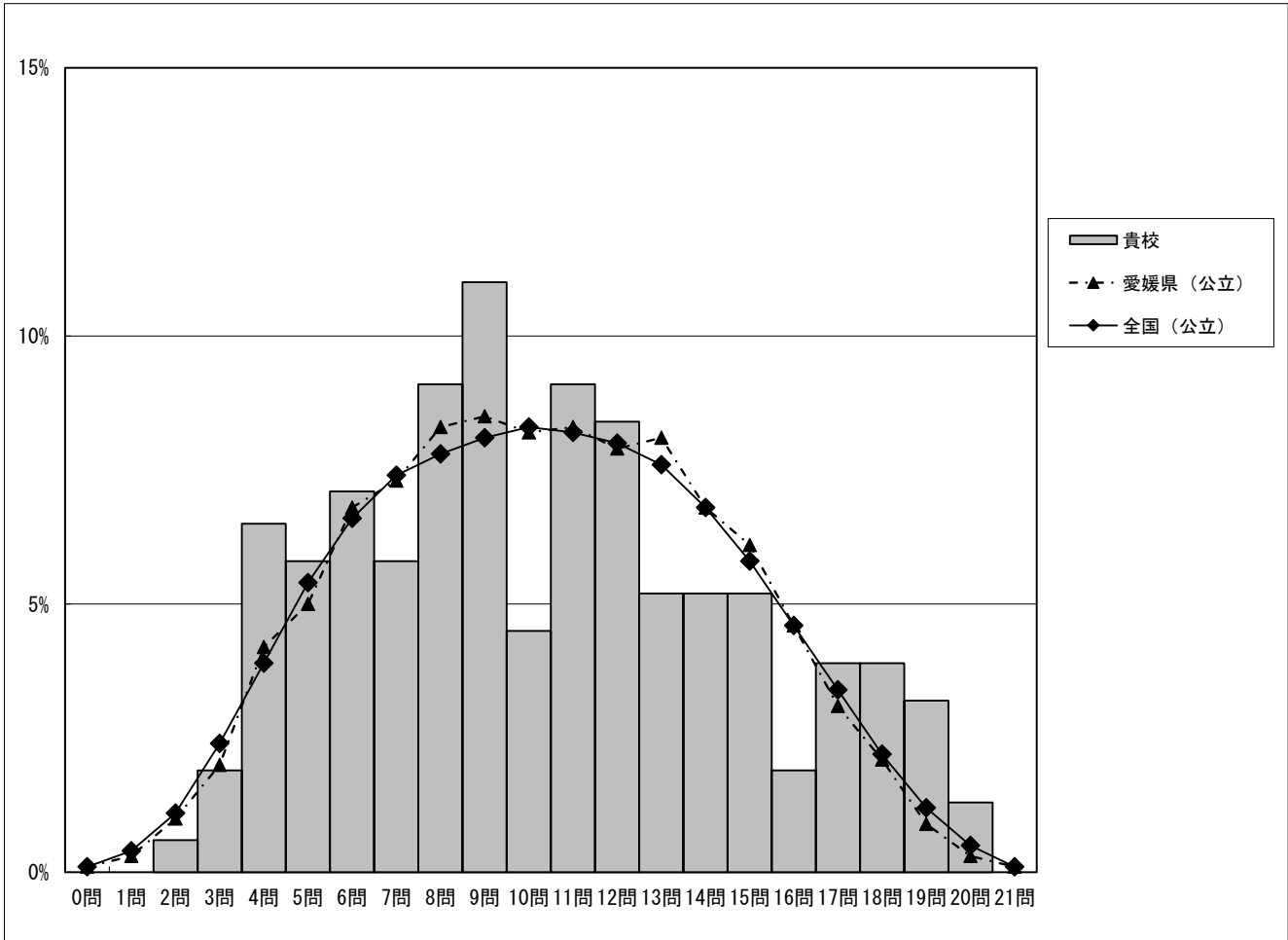


令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [理科]
 今治市立〇〇中学校一生徒

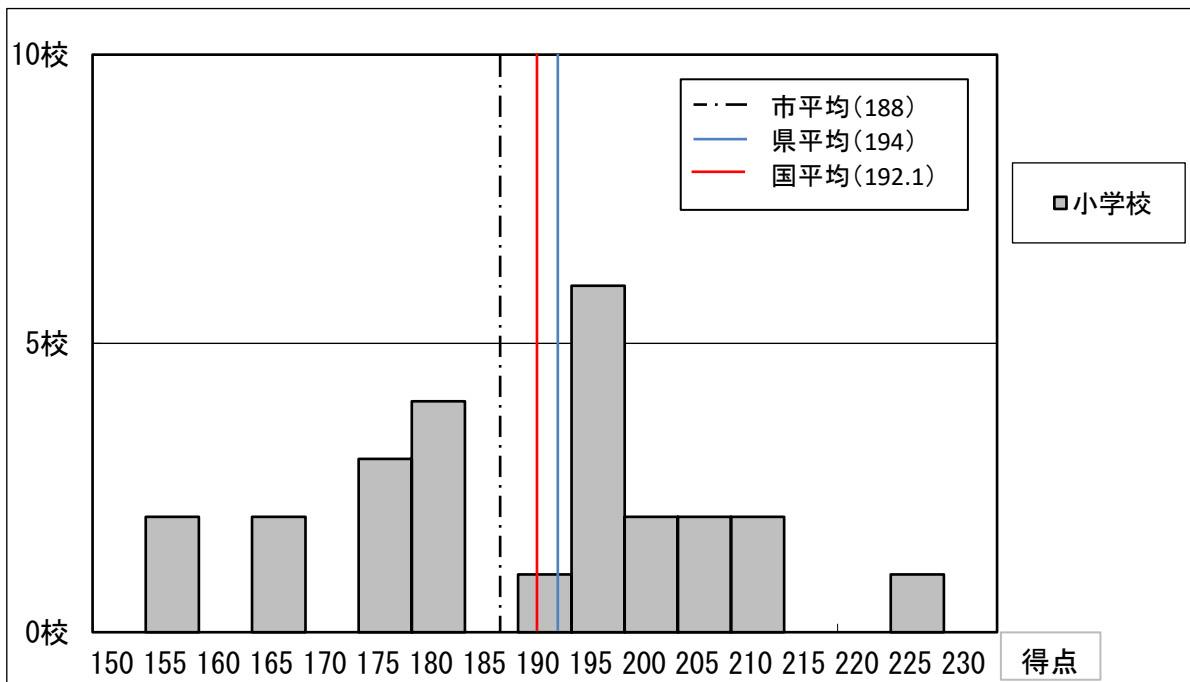
・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
今治市立〇〇中学校	154	10.4 / 21	49	10.0	4.4
愛媛県 (公立)	10,118	10.3 / 21	49	10.0	4.0
全国 (公立)	892,585	10.4 / 21	49.3	10.0	4.1

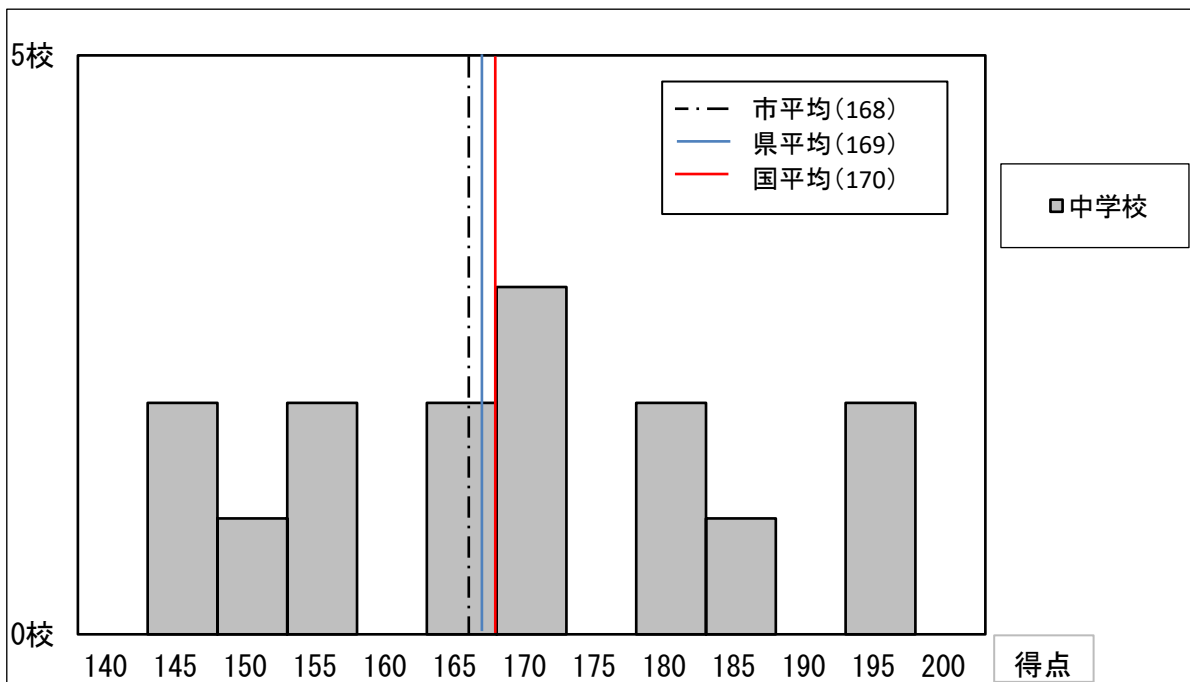
正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



全国学テ・小学校分布図



全国学テ・中学校分布図



8 愛理さんは、総合的な学習の時間に環境問題について調べています。調べたところ、世界が目指す持続可能な開発目標(SDGs)として、17の目標の中に「気候変動に具体的な対策を」という目標があることを知りました。

愛理さんの学級では、この目標に対してできることがないかを話し合い、二酸化炭素の削減に取り組むことにしました。取り組みの参考にするために、ほかの学校の取り組みを調べたところ、となり町の中学校のホームページを見つけました。

となり町の中学校のホームページにあった情報

私たちの取り組みの成果

参加した生徒数 86人

取り組み期間 14日間

家庭での二酸化炭素削減量の合計 300 kg

$\left(\begin{array}{l} \text{二酸化炭素} \\ 300 \text{ kg} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{l} \text{杉の木約 20 本が 1 年間に} \\ \text{吸収する二酸化炭素の量} \end{array} \right)$



そこで、愛理さんの学級では生徒30人で、「二酸化炭素300 kgの削減」を目標とすることにしました。この学級の目標を達成するために、家庭でできる二酸化炭素削減の取り組みと削減量について調べました。

家庭でできる二酸化炭素削減の取り組み

取り組み	二酸化炭素削減量
冷房をつけている時間を1時間短くする。	25 g
シャワーを浴びている時間を1分間短くする。	79 g
部屋の電気をつけている時間を1時間短くする。	23 g
テレビを見ている時間を1時間短くする。	23 g
⋮	⋮

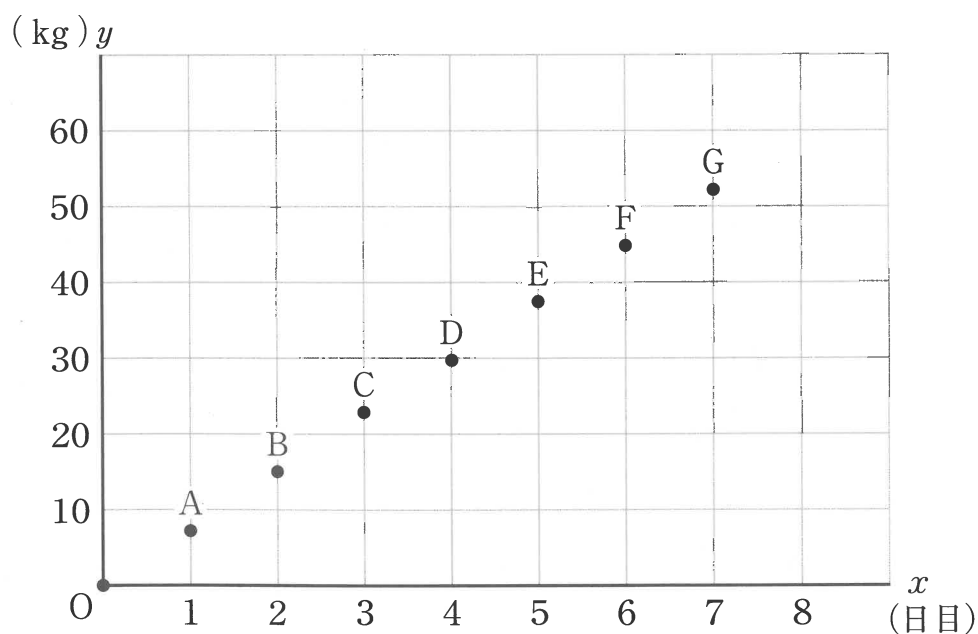
そして、家庭でできる二酸化炭素削減の取り組みの中から、生徒それぞれの家庭でできることを選んで取り組むことにしました。その取り組みの成果について、1日ごとの学級30人分の削減量をもとに、その日までの二酸化炭素削減量の合計を記録することになりました。

取り組みを始めた日の前日を0日目とし、 x 日目までの二酸化炭素削減量の合計を y kgとして、次のように表にまとめ、表の x と y の値の組を下のグラフに表しました。

二酸化炭素削減量の合計の記録

x (日目)	0	1	2	3	4	5	6	7
y (kg)	0	7.2	15.2	22.8	29.7	37.8	44.9	52.4

※ y の値は小数第2位を四捨五入



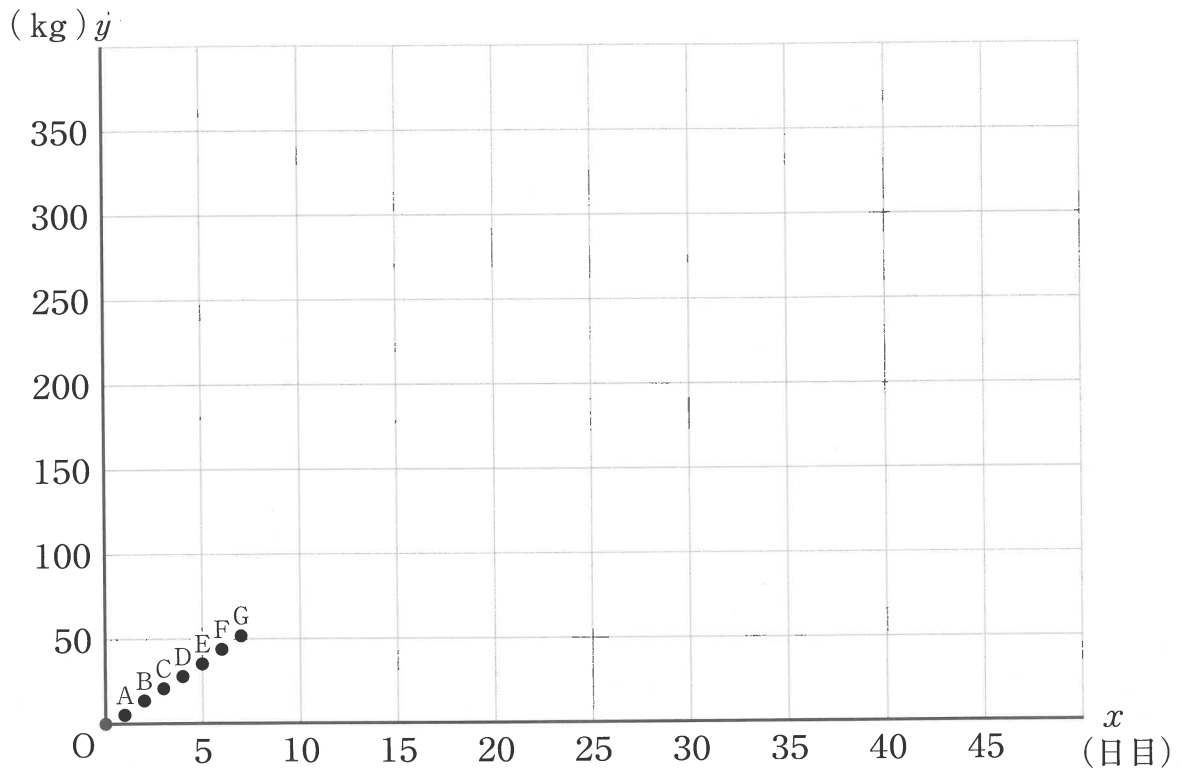
次の(1), (2)の各問いに答えなさい。

- (1) 二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、点Eの座標を書きなさい。

(2) 愛理さんは、7日目までの取り組みの結果から、目標を達成できるのがおよそ何日目になるかを予測することにしました。

そこで、下の二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、原点Oから点Gまでの点が一直線上にあるとし、このまま同じように取り組みを続け、二酸化炭素削減量の合計が一定の割合で増加すると仮定して考えることにしました。

二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフ



このとき、目標の300 kg削減を達成できるのがおよそ何日目になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に何日目になるかを求める必要はありません。